

おわりにあたり

● 今後の調査とおおよそのスケジュール

- ✓ 調査団の結成
- ✓ 7月-9月 調査団による現地詳細調査・分析
- ✓ 9月13日(予定)
 - 土木学会主催 中間報告会(一般開放)への協力
(九州大学伊都キャンパス)
- ✓ 年度末:調査・分析結果の取りまとめ
- ✓ 最終報告

おわりにあたり

- 現段階で考えられる調査の視点について
 - ✓ 平成21年、平成24年の九州北部の豪雨災害との対比
(降雨形態、**地質・地形・地盤**、流木、**微地形**。。。)
 - ✓ 広域的で単時間での土砂移動が筑後川河川流域にどのような影響を与えたのか？
(他学会と連携して分析)
 - ✓ 新しい調査技術の導入による調査・分析の有効性
 - ✓ ハード的な対策の効果の検証
 - ✓ 堆積土砂、流木等の災害廃棄物の処理・処分
 - ✓ 中山間地での豪雨災害への対応 – **山地を含んだ流域圏全体の防災** (自治体横断的な対応)
- 皆様への情報提供

おわりにあたり

● 調査団の枠組み(予定)

- 気象特性G
- 斜面崩壊・復旧G
 - ・土石流・土砂浸食と表層地質
 - ・広域斜面崩壊の時空間分析
 - ・大規模崩壊と復旧
- 河川被害・ため池G
- 交通インフラ被害G
- 土砂・流木災害廃棄物G
- 土砂移動を考慮した流域圏レジリエンス強化G

九州地盤情報共有データベースの活用

- 地盤工学会 九州支部
- (九州地盤情報システム協議会)
 - 2005年作成 (1版)3万
 - 2012年作成 (2版)3万
 - 2017年度(3版)(予定)

データ数:9万本(目標)

特色:

データ1本、1本の質



中山間地の地質・地盤の面的把握

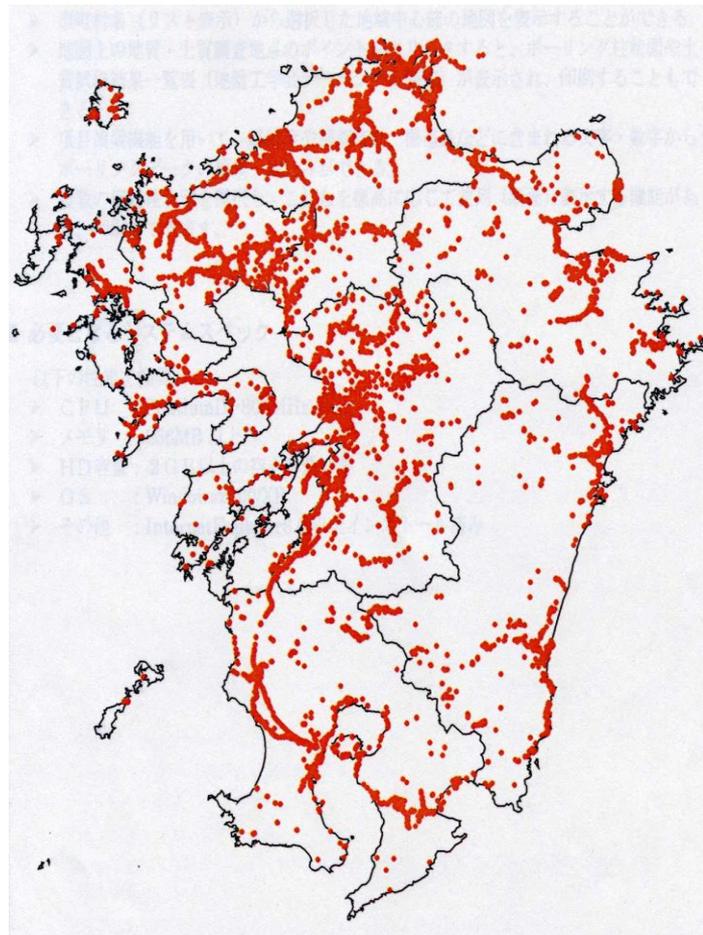
表-1 既存の九州データ収集状況

(単位:本)

	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	合計
国	6,154	3,632	2,304	4,200	2,618	2,536	2,704	24,148
県	137	89	981	1,500	198	269	267	3,441
市町村	976	0	0	0	19	1	0	996
公社・機構等	1,772	0	0	433	0	0	820	3,025
その他	35	0	0	0	0	0	0	35
合計	9,074	3,721	3,285	6,133	2,835	2,806	3,791	31,645

注) 今後のデータチェックにより本数は変更となる場合がある。

国、県、市町村、公社から平成15年
～17年のデータを収集(約3万本)



既存の九州データ収集状況

今後の展開 -より使いやすく、有用なものへ

地盤プロフィールの可視化とネットワーク化の推進

地形・地質・地盤を結び付けた高度で
多角的な解釈が可能



- 観測結果と組み合わせることで、解析精度の向上
- データの追加および空間補間
 - 斜面、河川堤防の弱部の抽出や宅地地盤の評価に寄与
 - より役に立つハザードマップ
- 地域防災・減災に活かすこと

(公社)地盤工学会九州支部(092-717-6033)

お 礼

- 本先遣調査を実施するにあたり、ご協力、ご支援いただいた**関係者の皆様**、急なお願いにも関わらずご後援いただいた**国土交通省九州地方整備局**、**福岡県**、**大分県**ならびに**朝倉市**、**東峰村**、**日田市**の**皆様**に、厚く御礼申し上げます。
- 今回の速報会を開催するに当たり、**地盤工学会** **災害連絡会議**の**皆様**はじめ、**地盤工学会九州支部**や**協会の皆様**に絶大なるご支援をいただきました。改めてお礼申し上げます。

おわりにあたり

- 今回の豪雨により被災された福岡県・大分県の皆様の一日も早い復旧と復興を衷心より願います。

おわりにあたり

- もし、被災地域において地盤や地質や地形に関するご相談ごとなどありましたら、「**地盤品質判定士会**」なる制度もありますので、遠慮なさらず、学会等にご問い合わせください。